



あさぎり町 農業委員会だより



令和7年
12月発行



農業委員自主活動

【サツマイモ収穫体験への道のり】

はじめは

あさぎり GO!! 農's フェスタにおいて、【芋田（いもでん）作らんな】との紹介で、サツマイモの収穫体験を募集。5組の家族の参加が決定した。対象農地は、1,000㎡の畑。借り手がおらず、遊休農地になっていたところに農業委員が集結していざ着手。畑を耕した。



4月には、畝作り。17列の畝ができた。さあ、本番はこれから・・・



6月には、参加者が集まって、サツマイモの苗植え。品種は紅はるか。「大きなお芋が実りますように」と願いを込めて。



11月ツル切り。ツルにもたくさんのサツマイモが付いてくる。

これは、土の中にはたくさんのサツマイモが実っているのではないかと想像ができるほど。

10月、ツルは伸び、雑草も生える。農業委員が仕事の合間を見て作業にとりかかる。

サツマイモは出来ているだろうか・・・



遊休農地 解消しよう！



さあ、いよいよ芋ほりの日。前日までの雨はきれいな青空へと変わる。

たくさん実っているであろうサツマイモを掘りに、参加者の皆さんは、たくさんの家族を連れて張り切って現地集合。早速、芋ほり開始。各家族で苗植えをした畝で一斉に掘り始める。

なかなか顔を出さないサツマイモ。子どもたちのかわいい声が響き渡る中、泥をかき分け、出てくるサツマイモ。大人も子どもも一生懸命に掘り上げる。

大きくて立派なサツマイモがたくさん。手も足も顔も泥だらけ。

収穫を終えた子どもたちは、泥遊びも楽しそう。たくさんのサツマイモを抱え「楽しかった」と笑顔で帰る参加者の皆さん。



60箱のコンテナいっぱい収穫したサツマイモ。

さあ次は、11月9日のJA農活祭にて販売。

サツマイモの詰め放題。

雨の降る中、たくさんの人によっていただき、準備していたコンテナ15箱、全て完売しました。

お買い上げいただいた皆さんありがとうございました。

初めての試みでしたが、農業委員で協力して、知恵を出し合い、事業を進めることで、地域の人々との交流、大人も子どもも一緒になって、経験をするの喜びなども味わえました。

今後は、どのような活動をしていくかは、まだ未定ですが、これから増えていくであろう遊休農地の解消の一つとして、農業委員でできることを、これからも検討を重ねていきたいと思います。

同時に進めておりましたひまわりは、きれいに咲くことは出来ませんでした。うまくいくこともあればそうでないこともある。そこが農業の難しさでもあり、試行錯誤する楽しさでもありますね。

今回の遊休農地対策でご協力いただきました皆さん、本当にありがとうございました。

あさぎり町で 頑張る ばい!!

尾方 尚生也さん 彩央里さん（上地区）

就農：令和3年4月
経営：葉タバコ・米・WCS
そば・梨・ごぼう

就農して4年目の少しずつ慣れてきたところです。やればやっただけ、手をかければかけただけ、美味しいもの、質の良いものができるのが農業の魅力です。ぼちぼち頑張りたいです。



宮本 裕太さん （岡原地区）

就農：令和4年1月
経営：イチゴ・メロン・麦
キュウリ・水稻



小さい頃から仕事を手伝う機会が多く、やりがいを感じ興味をもったことがきっかけで、農業を始めました。現在はイチゴ・キュウリ・メロンの栽培を中心に取り組んでいます。ハウス栽培を中心に、品質と収穫量にこだわった生産を心掛けています。

自然と向き合いながら育てる楽しさや、作物が収穫できた時の達成感がある一方で、天候や病虫害の影響を受けやすく、思うようにいかない難しさも感じます。

生産量と品質の安定を両立させ、スマート農業の導入による効率化にも取り組みたいと考えています。

永井 優士さん (免田地区)

就農：令和7年4月
経営：葉タバコ・米
薬草・WCS

まだ農業について、分からないことが沢山あるけど、早く仕事を覚えられるよう色々なことを聞いて、自分に仕事を任せてもらえるようになりたいです。



中村 竜綺さん (須恵地区)

就農：令和5年4月
経営：繁殖牛・桃・水稻
WCS

近くの牧場で働きながら、独立して農業ができるように、さまざまなことに挑戦しています。

まだまだ未熟ではありますが、祖父母をはじめ、地域の皆さまにご指導をいただきながら、日々努力を重ねています。

大変な道のりですが、楽しみながら頑張っています！

地域農業発展のためにー地元選出国議員との意見交換会ー

10月25日、ゆのまえ温泉湯楽里会議室にて球磨郡市農業委員会協議会主催（湯前町・前川敏幸会長）による地元選出国議員との意見交換会が開催されました。金子恭之国土交通大臣、松村祥史参議院議員、熊本県農業会議の楮本亮二専務理事兼事務局長をお招きし、人吉球磨の農業委員会会長、女性委員、事務局長34人が出席しました。

農業委員会活動の強化と推進を目的として開催されたこの会では、挨拶の中で両議員から国の農業政策に関する現状を報告されました。

その後は、出席者から、「水害被害後の農地の復旧対応」や「後継者育成」「スマート農業」「資材高騰」など農業の現状に関する質問や意見に対し、地域農業の課題を解決するために人吉球磨地域だからこそできることは何かなど、丁寧な説明とアドバイスをいただきました。

今後も人吉球磨地域の農業委員会はもとより、市町村・県・国が連携していくことの大切さを再確認し、地域農業のさらなる発展のために決意を新たにしました。



金子恭之国土交通大臣



松村祥史参議院議員

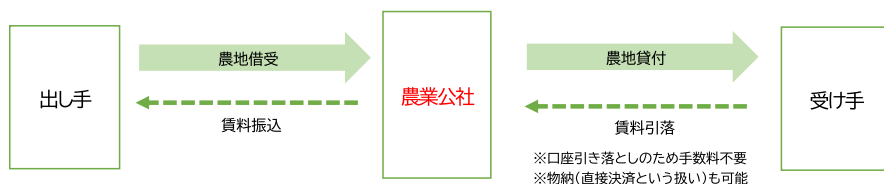
農業公社（農地中間管理機構）を ご存じですか？



熊本県農業公社（農地中間管理機構）は、農地を貸したい方（出し手）と農地を借りたい方（受け手）の間に入って、農地の貸借をお手伝いする公的機関です。

- ◎ 出し手が複数の場合でも農業公社との契約だけで済みます
- ◎ 賃料は農業公社が受け手から一括して引き落とし、出し手へ振込みます
- ◎ 期間満了後は、農地をお返しします（更新も可能です）

農業公社では、原則として**地域計画（目標地図）**に基づき、農地の貸借手続きを行います



熊本県農地利用最適化推進大会

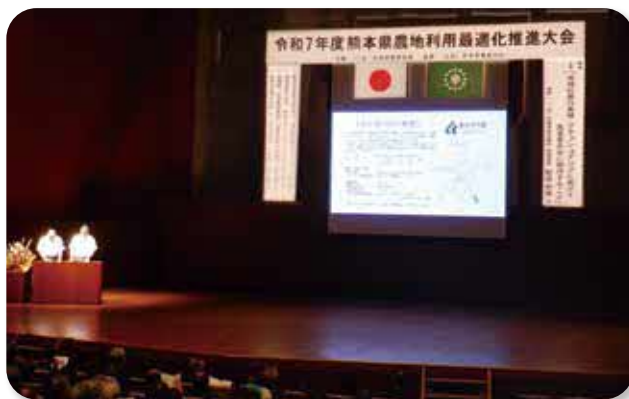
8月29日、熊本県立劇場において「熊本県農地利用最適化推進大会」が開催されました。あさぎり町からは18名参加しました。

まず、農業委員会優良活動の表彰が行われ、あさぎり町農業委員会も農業者年金加入推進部門で団体部門、個人部門では2名受賞しました。

今回の研修に参加し、農地の有効活用や遊休農地の解消に向けた取り組みの重要性を改めて感じました。また、高齢化や担い手不足が進む中で、農地を守り、次世代へつなげていくためには、農業委員として現場の声を丁寧に聞き、関係機関と連携していく姿勢が大切だと感じました。

今後も地域の皆さんと力を合わせ、農地の維持、有効利用に努めてまいります。

稲富 裕二



目標地図について発表する杉下会長

九州・沖縄ブロック農業委員会女性委員研修会

11月18日～19日、長崎県にて九州各地の女性委員と関係者約390名が集い、熱気あふれる会場での研修会が行われました。

8名～9名の37グループに分かれ、テーブルを囲んでのグループワーク。それぞれの委員より地域計画に取り組んでみての課題、耕作放棄地解消、農業者年金加入推進の取り組み、全国農業新聞の普及や利用方法などについて話し合いました。議論は尽きず、時間を忘れるほどの有意義な時間となりました。

その後、オリンピック金メダリストの内村航平選手のお母さんである内村周子さんに「諦めない！ポジティブに！いつも元気なその秘訣」と題し、講演いただきました。会場は、共感と笑い、拍手喝采で最後まで楽しいお話でした。

研修会後の情報交換会では中国伝統芸能の変面ショーが披露され、会場のボルテージが一気に上がり、最高に盛り上がりました。

2日目は全国農業委員会女性協議会の道下会長が講演され、女性委員ゼロの農業委員会解消や女性委員複数登用に向けた取り組みとして全国を飛び回り、関係機関への要請行動や、女性農業者との交流研修会に参加されるなど積極的な活動をしておられるとのお話を聞き、これからも女性の視点を活かした積極的な行動が必要だと感じました。

毎年、九州・沖縄の女性委員の方々と交流を深めることができ、たくさんの仲間と情報共有、委員活動への共感ができる素晴らしい研修会に参加させていただき感謝いたします。今後の農業委員会活動の励みになりました。

宮原 久子



熊本県女性委員集合写真



笑顔で講演される
内村周子さん

研修に行ってきました



農業委員の視察研修として、11月12日～14日に委員・職員総勢21名で関東方面に行ってきました。午前5時半出発、朝一の飛行機ということで、朝日に照らされた綺麗な富士山を左手に見ながら、無事羽田に到着しました。

埼玉県秩父市で初日の研修。球磨地方のような中山間地域ですが、水田は少なく、首都圏に向けた野菜や果樹栽培、観光農業が盛んな地域です。訪問した秩父市市役所では、農業委員会と鳥獣対策課から説明を受け、意見交換を行いました。農業委員会の横田会長は女性で、全国農業委員会女性協議会の会長も務めておられました。秩父市も高齢化や後継者不足の影響で、耕作放棄地や遊休農地が増加しています。そこで、少しでも遊休農地を減らすため、横田会長が中心となり女性農業者やボランティアグループと協力して遊休農地の解消に取り組んでおられます。また、農家レストランや民宿施設を立ち上げたり、女性農業委員の数を30%に引き上げるなど、女性農業者の社会参画の推進にも尽力されています。日本の総理大臣も女性になったように、どの分野でも女性が活躍する時代になってきたと感じました。



鳥獣対策課の説明がその後ありました。そういう課があるとおり、市の87%が山林の秩父市では、サル、シカ、イノシシなどの鳥獣被害が多く、特にサルの被害がひどいそうです。そこで、ただ駆除するだけでなく、複数の群れで行動するサルについては、その群れのボスサルを捕まえてGPS発信器を装着し行動範囲を把握、現在の位置情報を地域住民で共有して追い払いを実施することで被害がかなり少なくなったということでした。シカ、イノシシについては、低コストの電気柵を独自に開発して市から補助を受け、効果を上げているそうです。ハンターの減少や高齢化で厳しい状況ですが、農業者と行政でこの対策に取り組んでいかねばならないと感じました。

茨城県常総市で2日目の研修。観光イチゴ農園「グランベリー大地」を視察しました。高速道路常総IC周辺の複合施設の一角にあり、そのコンセプトは「空中いちご園」。吊り下げ式の高設栽培で、隙間なく並んでいるイチゴ棚が1列おきにシーソーのように上下して通路を確保し収穫するシステムで、実際見てみないと文字では説明できないような施設でした。都心から1時間程度の距離で、シーズンでは約8万人の来客があるそうです。イチゴの他にトマトやサツマイモ、カフェや加工品、土産売り場も完備して完璧な観光農園でした。総工費15億円、とても個人では無理ですが、事業としては画期的な施設だと感じました。あさぎり町はどうですか？



東京都中央卸売市場豊洲市場で3日目は視察研修。築地から移転して7年、広大な敷地にさすが日本の台所と驚きました。市場内を見て回りましたが、意外にも熊本県の農産物は少なく、ちょっと残念。また、築地のような飲食店や直売、土産屋さんも少なく、観光は築地に残して市場として栄えている豊洲でした。



今回の研修を終え、現在の農業の課題、未来の農業のカタチを見て、今すぐあさぎり町で出来るかはわかりませんが、少しでも町の農業の繁栄につながるよう農業委員として頑張っていきたいと思います。

農業振興対策班班長 田崎 洋一郎



関東方面に先進地

■農業委員会活動

全国農業委員会女性協議会会長を歴任され、農業委員として20年あまり活躍されている横田氏のお話を聞き「役職が人を育てる」「自ら行動し、地域を巻き込んでいかに協力してもらうかが大事」という言葉が心に残りました。担い手不足と高齢化といった同じ悩みを抱える中山間地域でしたが、農地を管理（除草、耕運）し、栽培できる環境を保てるよう継続して取り組み、地主と新規就農者との仲を取り持っていきたいと話され、小柄な女性の方ではありましたが、地域のリーダーとしての大きなパワーを感じました。

■鳥獣害防止対策

イチゴやブドウなどの観光農業が盛んな中山間地域で、サル・シカ・イノシシによる鳥獣害被害に悩む地域であり、地域の方から「サル追いの専門家」と呼ばれ、サルが見ると一目散に出ると自己紹介された市役所鳥獣害対策課の深田課長から、これまでの取り組みについて説明がありました。

成果を上げている要因は、行政からの補助金ありきではなく、鳥獣害対策を人任せにしない地域づくりを目指し、地域の方自らが対策に取り組んできたこと、またそれを導いた職員の努力と負けん気の強さがあったからだと思います。

■11月13日 茨城県常総市グランベリー大地において

15億円程かけた大型連棟ハウスは、イチゴが宙に浮いている「空中イチゴ園」としてリフト式イチゴ農園では日本最大級とのことで、これから実を付けるイチゴが植えてありました。入園料は40分食べ放題で、中学生以上一人平日2,500円、土・日・祝2,800円で少々高いなと感じましたが、年間8万人を超える来場者があるとのこと。要因としては、首都圏から近く、圏央道常総ICのすぐ横にあり、隣の道の駅には多くの人も集まる立地条件であること、ハウスの東側に大きな物流倉庫が建設され、その日照不足を解消するために設置されたLED照明を夜間のイチゴ狩りの照明として活用したこと、またスイーツを味わえるカフェを併設したことなど、設備や農産物を有効かつ効率的に活用していることだと感じました。



■11月14日 東京都中央区卸売市場 豊洲市場において

首都圏の新鮮な生鮮食料を安定的に供給する役割を担っている豊洲市場を見学に行きました。敷地面積約35.5haに水産卸売場棟、水産仲卸売場棟、青果棟があり、1日の取扱数量は水産物が1,182トン約18億円、青果物が849トン約3億7千万円とのこと。

実際に競りは見られませんでした。これが年間250日あまり毎日朝方までには取引されていると思うと、人のパワーと現場の活気を想像した次第です。約2時間かけた見学は還暦を過ぎた足腰には少々堪える研修となりました。



田中 伸明

農業者年金特別研修会

令和7年度熊本県農業者年金特別研修会がホテル熊本テルサにて開催され、あさぎり町からは8名出席しました。

初めに令和6年度の各部門の表彰式があり、あさぎり町農業委員会は熊本県農業会議会長賞で団体の部第1位、個人の部で廣瀬孝喜委員と北崎一英委員が受賞しました。その後の講演では、農業者年金加入推進事例の中から、茨城県の取り組みを紹介され、関係者一同でさまざまな情報を共有できたことが、加入に繋がったことなどの紹介がありました。

また、県内の事例として、JA 本渡五和の発表があり、農業委員会とJA 担当年で年2回の加入推進会議と個別訪問をするなど、農業者年金の魅力を十分に伝えたことが、成果に繋がっているとの話がありました。

農業者年金は保険料が積立方式であること、支払った保険料全額が社会保険料控除の対象となることなど、農業者にとって大きなメリットがある年金制度です。農業者の将来の生活安定のため、ぜひご夫婦で農業者年金の加入をお勧めします。

藤本 勇二



農業者の
みなさん

農業者年金に加入しませんか？

農業者年金には

★通常加入→要件確認
(2万円～6万7千円)

- ①国民年金第1号被保険者
- ②年間60日以上農業に従事
- ③60歳未満

加入できます

★政策支援加入 要件を満たせば加入できます
(国庫補助あり)

さらに !! 便利になりました！

- ①35歳未満で、政策支援対象とならない人は、1万円から加入できます。
- ②受給開始時期の選択肢が広がりました。(65歳から75歳)
- ③農業者年金の加入可能な年齢の上限が60歳から65歳までに引き上げられました。

詳しい内容については、農業委員会事務局までお尋ねください。





農業者年金のススメ



受給
しています

山森 公二さん（上地区）
主な作物：タバコ・水稻・WCS



32歳の時に加入しました。
国民年金等では不安なので、加入して良かったと思っています。
メリットは、支払った保険料全額が社会保険料控除となることです。



田中 隆幸さん（免田地区）
主な作物：メロン・水稻・麦

加入
しました



45歳で加入しました。
色々メリットがあるので、
将来の老後のために、早く加入しておけば良かったと思っています。





お正月にも
使えるよ

作ってみて！

農家の時短レシピ

びっ栗 デザート

材 料

栗 適宜

たれ { ★ 水あめ
★ 砂糖 甘さはお好みで
★ ハチミツ
ホイップクリーム（市販）



いただきます！



作り方

- ①ゆがいた栗を半分に切って、中身をスプーンなどで取り出す。少し粒が残る程度までつぶして丸める。
- ②フライパンに★の材料をすべて入れて2、3分煮て水分を飛ばす。
- ③カップに②のたれ、ホイップクリーム、①の栗を乗せて出来上がり。

【レシピ提供：井手 久美子】

全国農業新聞



★発行日：毎 週 金曜日

★購読料：1ヵ月 700円

（送料 税込み）

※令和8年4月より月額900円に改定
されます

★購読申し込みは、農業委員会事務局まで

農業現場に役立つ情報をお届けします。購読してみませんか？

農業振興対策班

班 長

田崎 洋一郎

副班長

井手 久美子

藤本 勇二

宮原 久子

宮原 範行

中村 好文

北崎 一英

稲富 裕二



編集後記

最近、毎日のように報道され、日本中を騒がせているクマ被害。今年は過去最悪のペースだという。農作物や家畜の被害以上に人間を襲う恐怖は計り知れない。私も野生のシカに出くわしたことがあるが、あの温厚に見えるシカも、近くで見れば恐怖を感じるのに、立てば2mもあるクマが襲ってきたらもう死を覚悟するしかないだろう。

幸い、私たちの住む九州にはクマは絶滅して存在しないというが、この広い九州山地のどこかで生き延びているかもしれないし、山口県で確認されているクマが海か関門橋を渡って九州に来るかもしれない。かつて天草にはシカやイノシシはいなかったそうだが、海や橋を渡って生息域を増やしたそうなので油断はできない。

そもそも野生動物の被害の原因は人間にある。地球温暖化を引き起こし、夏の猛暑で山の食料が激減し、メガソーラーなどの森林開発で住む場所も奪ってきた。腹を空かせた動物たちは過疎化で放置された里山の柿や栗を食べ畑を荒らす。それでも足りないから市街地にまで出てくる。モノを作って食べる人間と違い、動物はそこにある物を食べなくては生きていけないのである。

ヒトと野生動物の共存共生はもう限界といわれているが、ただ駆除するだけでなく、その原因を作ったヒトが少しずつでも昔の姿に戻す努力をしなければ、この問題は解決しないと思う。

皆さんは、どう考えますか？

田崎 洋一郎